

誰もが気軽に体操に親しめる環境が整った。 未来の五輪選手がここから羽ばたく。

体操は日本のお家芸と言われているが、選手層はそれほど厚くはない。五輪の金メダリスト池田敬子さんは人々の健康づくりや、正しい生活習慣の習得に体操が役立つと考え、誰もが気軽に体操を始められるように「ジャンピング体操スクール」を開設し、日本の体操の底辺を広げようとしている。

ボランティアが支え、
地域が見守るスクールができた。

池田敬子さんは女子体操の日本代表選手として1954年ローマ五輪の平均台金メダルをはじめ、五輪・世界選手権で合計8個のメダルを獲得した名選手だ。現在は日本女子体育大学の名誉教授でもある。その池田さんが広島県をベースに広めようとしているのが「ジャンピング体操」だ。体操の基礎を幼いころから身につけさせようという試みである。

体操ニッポンと言われながら、実は日本では体操の専門施設はそれほど多くはない。誰でも始められることを前提にすれば、生徒たちに過度な負担もかけさせられない。そこで広島県出身の池田さんは、私財を投げうって故郷に専用体育館を建てた。

今、この体育館では「親子教室」や「幼児科」などの入門コースから、世界を目指す人材を育てるための選手コースまで、さまざまな生徒が体操を学んでいる。毎日練習スケジュールはぎっしりだ。

池田さんは「ジャンピング体操」を広めることについて次のように語る。

「まず健康な子どもたちを育てること。そして、規律のある生活習慣を身につけること。地域の中に溶け込み、生涯学習や体操を通じた新しい関係を確立することなど、数えきれないほどの意義があるのです」

指導中の池田先生は厳しい。話をするときも、生徒がきちんと列を作って並び、全員がつま先をそろえるまで注意をし続けていた。それでも先生を見つめる子供たち

の目は楽しそうだ。以前、何人かの不登校児童がいた。それでもジャンピング教室には来ていた。

池田先生が「ちゃんと学校に行ってからでないと来てはダメ」と指導したところ、不登校児はいなくなっていた。体育館の周りはガラス窓があり、周辺の人たちが練習を眺めている時もある。また、子どもたちの体力低下が言われる中、ここで学んだ園児や児童は転ばなくなったなど父兄からも好評である。

コーチの一人、池田美幸さんは隣接する鈴峯女子高等学校の教諭だが、毎日のようにボランティアで指導している。生徒の月謝を非常に低く抑えているため、そうした協力がなければとても運営できないのだ。そんな講師の中には、以前は池田先生に習っていたという人も多い。池田さんが「ジャンピング体操」を始めてからもう40年という年月が経っていた。

発表機会を増やし、
貴重な装備を揃えることで成績も向上。

今回の助成金を池田さんは2つの目的で利用した。一つは競技会の開催である。体操の様に演技を伴うものは、人に観てもらうことが成長のためには欠かせない。ただ審判の確保や通信費などの経費がどうしてもかかってしまう。

「今年は女子の競演会や発表会を開催できました。他県で学ぶ生徒たちも自力では開催できないところが多いので、発表の仲間に加わってもらいました」

3月21、22日の子どもたちによる発表会では、近隣住民が体育館の周りにテントを張って参加した。さながら、昔の運動会である。


もう一つ、念願のピット（衝撃吸収力の高いマット）を導入した。体操はアクロバティックな動きも多く、その分ケガがつきものである。ピットはそれを未然に防ぐためにどうしても必要なのだが、体育館建設で精一杯で見送られてきた。「これまで、五輪を目指せるような生徒で

も大会直前のケガに泣くとか、リスクを回避して技の難度を下げたこともある」(池田さん)。

ピット導入後、けが人は激減した。高度な技にも挑戦できるようになったので、大会では上位に食い込む生徒が増えてきた。長期に渡って世界レベルの選手を育てることも期待できるのだ。

今の教え子の中には、日本五輪協会指定の強化選手もいる。ロンドン、あるいはリオデジャネイロ大会で、「ジャンピング体操」育ちの選手が活躍する可能性も見えてきた。そこから次のステップに上げていくことが池田さんの夢である。

担当者より



皆さまの活動を心強く、
誇りに感じます。

ジャンピング体操スクール校長
池田敬子さん

AJOSCならびに県遊協の皆さまが、大変なご努力をされながら、社会貢献をされていることに頭を下げたいと思います。また、そうした大人が日本にこれだけいらっしゃることを力強く感じ、誇りに思います。子どもたちや地域住民を代表して御礼申し上げます。



中部ブロック大会では成績を上げる生徒が続出



体操を通じて体や心を育む



ピットは選手をケガから守る「命のマット」とも呼ばれている



指導中の池田敬子さんと池田美幸コーチ。声は厳しいが、まなざしは優しい